



活動場所への移動も安全第一

部活動移行



無所属
あさはら としや
浅原 俊也 議員

問 部活動の地域クラブへの移行が進んでいる。活動場所への自転車の移動は、安全管理や指導を徹底すべきと考えるが、対応は。
答 自転車安全教室の開催や移動中の安全確保のマニュアル等を策定し、事故防止を徹底している。
問 町外活動への移動手段は。また、保護者等の送迎の是非は。
答 原則、公共交通機関を利用しているが、貸切バスや庁用バスの使用を拡充する。また、保護者等の送迎も行っている。

問 新基準を満たす省エネエアコン購入等の補助は、CO2削減だけでなく、熱中症対策や物価高対策にも有益な施策のため、多くの市町で実施されている。本町でも実施すべきと考えるが、見解は。
答 国の政策として実施されるべきであると考えている。そのため、国や県に要望していく。

エアコン購入の補助は

活動場所への移動の安全確保は

答弁

事故防止について
万全を期す

問 貸切バスの事故が多発しているが、利用する際の安全確保は。
答 国の通知等を基に、事業者との適切な契約やナンバープレートの色の確認などを徹底して行う。
問 移動中の事故の責任と補償は。
答 指導者が引率していない場合は、原則個人の責任と考える。生徒は、加入しているスポーツ安全保険により保障される。保護者等の車両での移動は、スポーツ安全保険への加入を義務化し、ルール化を図り、安全管理に努める。



無所属
たけうち もとなり
竹内 基就 議員

薬物防止を

薬物乱用・不適切使用の防止を

答弁

講演会で注意喚起

問 令和8年1月プロ野球選手が、ゾンビたばこと呼ばれる指定薬物の使用で逮捕された。大麻の使用による検挙者も若年層を中心に増加し、県内で過去最多を更新した。SNSの普及等で入手しやすいことも原因だが、注意喚起や啓発は。
答 毎年、中学校では、薬物乱用防止講演会等を開催し未然防止に努めている。保健の授業でも、薬物の種類や悪影響等を学んでいる。SNS指導の際の違法薬物に関する啓発は。

問 中学校では、情報モラル講演会の中で、違法薬物の売買等の危険性も指導している。また、保健の授業でも、SNS上で「合法」などというたい薬物の購入を促す危険性があることを学んでいる。
問 オーバードーズなどの市販薬の過剰摂取への対策は。
答 過剰摂取の原因となる悩みや心配ごとを抱え込まないように、相談窓口を掲載したチラシを授業用タブレットでいつでも閲覧可能にする予定である。

熱中症対策を



違法薬物に注意

問 令和7年夏、熱中症による救急搬送者数が全国で、10万人を超え過去最多、死亡者も17人に上った。今年も猛暑の予想だが対策は。
答 クーリングシェアリングの利用を推奨しており現在、公共施設19か所と民間施設3か所を指定している。さらなる利用を呼び掛ける。



公明党
きむら はるえ
木村 晴恵 議員

助成を拡充

男性もワクチン接種負担なしに

答弁

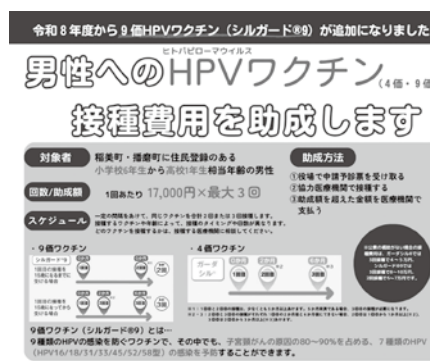
助成額の増額を検討

問 女性のHPVワクチン接種は定期接種対象であるのに対し、男性は接種による肛門がんや中咽頭がんなどの予防効果が認められているが、任意接種である。
本町では、男性へのHPVワクチン接種の費用を17000円助成しているが、現在の4個ワクチンが製造中止になり、9個ワクチンのみになった場合は、一部自己負担することになる。女性を対象としたワクチン接種と同様に全額助成するべきである。

答 本町では令和7年度より、小学6年生から高校1年生相当までの年齢の男性を対象に、HPVワクチンの接種費用を助成している。男性も9個ワクチンのみの接種となった場合、接種費用が1回あたり3万円程度と高額であることから、令和9年度の助成額を増額する方向で検討する。

避難所受付の簡素化を

問 デジタル技術を活用したシステムの導入で、受付や避難所の混雑緩和につながり、避難所ごとの避難者数や属性を把握でき、避難者の適切な誘導も可能になる。
災害時に、地域住民が安心して避難できる環境や仕組みを整えるためにシステムを導入する考えは。
答 総合防災訓練で職員向けデモを行い、システムが有効な反面、電源確保や操作などの課題も見えた。本町にあった運用について研究する。



助成の拡充を

官民協働



チーム新星
ほそだ たけお
細田 武男 議員

問 誰一人取り残されないデジタル化の一つとして、町はスマホ講習会を開催している。同様に、野添コミュニティセンターでもスマホ教室を開催しているが、事業費不足で途切れてしまわないよう、町として補助する考えは。また、全町的に拡大していく考えは。
答 野添コミュニティセンターが費用面で苦慮されているのであれば、コミュニティ委員会と協議を行い、支援策を講じていく。
また、スマホ教室の全町への拡大については、コミュニティ委員

スマホ教室の拡大は

答弁

関係団体と
協議の上で検討

会などの関係団体と協議した上で、検討していく。
自転車の安全運転
問 土山駅から大中遺跡へ続く「てあいの道」について、自転車はどのような通行となるのか。
答 法的には、一般交通の用に供するその他の場所に該当し、道路交法上の道路となる。自転車には道路交法が適用され、歩行者優先など、一般の道路と同様の交通ルールを遵守する必要がある。

火災警報器は



野添コミセンのスマホ教室

問 義務化されていても設置状況が把握できない中で、点検や交換にもう一步踏み込んだ啓発は。
答 令和8年度から高齢者や障がい者を対象に、住宅用火災警報器の取付費用を一部助成している。今後も、継続的に啓発に取り組む。